

日本の工業における「伝統工業」のカリキュラム構成と評価（その1）

著者	矢ヶ崎 孝雄, 社会科教育研究グループ, 坂本 爽見, 岩田 靖夫, 窪田 長世, 新保 賢良, 端保 源太郎, 仲谷 外志子, 野田 大介, 花外 健男, 福原 俊夫, 細川 紀彦, 村本 外志雄, 屋敷 道明, 吉田 貞介
雑誌名	教育工学研究 = Studies in educational technology
巻	4
ページ	1-16
発行年	1978-09-11
URL	http://hdl.handle.net/2297/24875

日本の工業における「伝統工業」の カリキュラム構成と評価（その1）

矢ヶ崎 孝雄*・金沢大学教育学部教育工学センター
社会科教育研究グループ**

目 次

- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| 1 研究のねらい | (3) 事前調査の結果とその利用による
展開案への試行 |
| 2 研究の方法 | ① 記述式調査の結果 |
| (1) 伝統工業の定義 | ② 映画利用の調査結果 |
| (2) 単元の目標 | ③ 映画の調査結果をもとにした展開案への
試行 |
| ① 新指導要領の説明 | (4) 第1次展開案 |
| ② 展開のポイント | 4 展開のバリエーション |
| (3) 研究の手順 | (1) A型 九谷焼中心、見学主体の学習展開 |
| ① 教材観の確立と目標の設定 | その1 附属小学校 |
| ② 事前調査を踏まえた単元構成 | その2 泉野小学校 |
| ③ 単元展開の型 | (2) B型 輪島塗中心、学習参考図書主体の
学習展開 |
| 3 単元構成 | 材木町小学校 |
| (1) 事前調査の方法とその意図 | 泉野小学校 |
| (2) 映画の利用によるレディネステスト | (3) C型 輪島塗のみの短サイクル学習展開 |
| ① 映画の概略 | 小坂小学校 |
| a 九谷焼 | |
| b 輪島塗 | |

1 研究のねらい

従来、社会科授業評価の研究においては、授業設計があまりにも1時限の展開に力点を置き

過ぎ、ゴールとしての単元の最終目標の到達という点からみると、ややマイクロな部面に研究のウエイトがかけられすぎてきたきらいがある。

* 矢ヶ崎孝雄	金沢大学教育学部	野田大介	金沢市立野町小学校
** 坂本爽見	金沢市立泉野小学校	花外健男	金沢市立味噌蔵小学校
岩田靖夫	金沢市立泉野小学校	福原俊夫	金沢市立小坂小学校
窪田長世	金沢市立弥生小学校	細川紀彦	金沢市教育委員会
新保賢良	金沢市立駒場小学校	村本外志雄	金沢市教育委員会
端保源太郎	金沢大学教育学部附属小学校	屋敷道明	金沢大学教育学部附属小学校
仲谷外志子	金沢市立材木町小学校	吉田貞介	石川県教育センター

社会科の単元学習において大切なことは、その単元を終えた後、期待通りの概念が児童にどのように形成されたかということである。各時限の授業展開が、児童の意識や思考に沿ったものであるべきことは勿論であるが、その展開の仕方には児童の居住地域の実態、既習の学習内容、教材の質等によってさまざまなバリエーションが当然考えられるのである。カリキュラムの構成のむづかしさの1つはここにあるといえる。

ところでカリキュラムの構成には、いくつかのルートがあるとしても、研究の手順としては1つのモデル的ルートを設定、実践し、後で修正を加えて期待のプランの構築に至るのが普通であるので、かような方法によることにした。幸い今年度は別記のように多数の研究者の参加を得たので同一時期にいくつかのルートによる実践が可能になった。そこでモデル的プランから考えられたバリエーションの中から、3つを選び実践してみることにした。かような実践を通して上記の授業展開の根拠とそのバリエーションを探りたいと考え、研究を進めてきたのである。

研究に取り上げた素材は、昭和52年7月に公示された新学習指導要領の中で、新しく登場した小学校5年の単元「日本の工業」における「伝統工業」である。伝統工業を取り上げたのは、当地が伝統工業の発達した地域であること、新単元の展開のあり方に研究の意味があると考えたからである。

なお、本年度は新単元のカリキュラム構成をする際に必要な目標の設定から、実践に基づいた展開例までを取り上げ、実践後の評価とその考察及びカリキュラム再構成については、次年度にゆずることとした。

2 研究の方法

(1) 伝統工業の定義

新指導要領で取り上げている「伝統工業」をわれわれはどのように考えるか。まず、その定義づけをする必要がある。ここでは「伝統工業」と新指導要領の呼称を使用した。この種の用

語は、他に伝統産業、伝統工芸、あるいは伝統的工芸品産業ないしは在来工業、地場産業と枚挙にいとまのないくらいである。このように呼称が異なるのは、その内容についてそれぞれに考え方や解釈に相違があるからである。

石川県高等学校野外調査研究会発行の「石川県の伝統産業⁽¹⁾」によれば、伝統産業について次のように記している。すなわち“伝統産業とは外来の機械生産による近代的な産業に対して、日本に歴史的に早くから起って、日本の風土の中で日本の原料と日本人の技術によって生産されてきた産業のことである。”といい、“近代産業としての外来産業、移植産業に対するものであり、機械生産に対する手工業の生産、つまり手工業のことである。”と定義している。この定義づけを踏まえ、ここでは次の6条件が満たされた時、伝統工業として取り上げ、教材の素材とすることにした。

- ① 明治以前からある工業である。
- ② 現在も存続しているものである。
- ③ 製造工程の中で伝統的な技術が生かされているものである。
- ④ 原料が地元にあるものである。
- ⑤ 同業者が集団となって産地を形づくっているものである。
- ⑥ 製品が日用品として日常生活に入り込んでいるものである。

この観点から石川県における伝統工業を取り上げてみると、代表的なものだけでも、輪島塗、田鶴浜建具、金沢仏壇、加賀友禅、九谷焼、金沢箔、山中漆器と多くを数えることができる。これらの中からわれわれは輪島塗と九谷焼の2つを教材として取り上げた。

輪島塗は地元石川県の代表として、児童に親近感があり、資料の蒐集が容易であるだろうと考えたからであり、九谷焼は児童が日常いつも手にしており、工場見学も可能であると考えたからである。なおこの2つは伝統工業として産業のスケールも大きく、全国的にも一応名前が知れているものであるということも取り上げた

理由の1つである。

(2) 単元の目標

① 新指導要領の説明

新学指導要領では、伝統工業について次のように記載している。

5年内容(2)の(イ)

「伝統的な技術を生かした工業について、人々が原料や土地の条件を生かしながら生産していることを理解し、生産する人々の技術や製品のもつ意味について考えること」⁽²⁾

この指導要領の記述を基礎にして、われわれは学習展開のポイントやねらいを設定した。

② 展開のポイント

伝統工業においては、土地の条件と伝統的な技術を生かし、また、その保存や新たなる工夫に努めながら生産している姿を中心に授業を展開する。

(3) 研究の手順

① 教材観の確立と目標の設定

伝統工業に対する教材観を確立するために、伝統工業の定義づけと、それを教材として取り扱う場合の内容・方法について考察した。またこれをもとにして目標を設定した。なお、目標設定に当たっては、これまで以上に教材の考え方について児童の立場に立って検討を加えた。⁽³⁾

② 事前調査を踏まえた単元構成

前項(2)で定めた目標と展開のポイントを、事前調査の結果を基礎にして単元を構成した。これが第1次の展開案であり、本単元の1つのモデルである。ついで、この第1次展開案を根底に、各学校の地域性や児童の実態を考慮して次項のような3つの型を設定し、よりよい展開案を作成すべく実践を試みた。

③ 単元展開の型

- 1 A型 九谷焼、輪島漆器のうち、九谷焼に重点を置き、見学を取り入れる。輪島塗は従として扱い、映画を視聴して展開する。金大付属小学校と金沢市立泉野小学校の2校で実践した。
- 2 B型 九谷焼、輪島塗器のうち、輪島塗

に重点を置き、映画と参考図書を取り入れて学習を展開する。金沢市立材木町小学校で実践した。

- 3 C型 前2者に比べ比較的短いサイクルで学習を展開し、素材は輪島塗だけで単元を貫き、映画を取り入れて学習を展開する。金沢市立小坂小学校の例がそれである。

3 単元構成

(1) 事前調査の方法とその意図

児童のレディネスや素材に対する興味・関心・疑問と単元のねらいとを比較し、指導のウェートのかかる部分を明確にしたのち、単元を構成した。今回は以下のような方法を用いた。

まず1つは記述による既有知識の調査である。「九谷焼とはどんなものか」、「どこでどんなふうに使っているか」など10項目の質問調査をし、その結果を単元構成の土台にした。

つぎの方法は映画の利用である。「九谷焼」、「輪島塗」の映画を実験クラス以外の児童に見せ、興味を抱いた事柄、疑問に思う事を書かせた。これらの興味、疑問を展開案の中に取り入れることにより、児童の側に立ったカリキュラム構成をねらったわけである。

(2) 映画の利用によるレディネステスト

① 映画の概略

- a 九谷焼 (23分、カラー、石川県観光物産課製作、フィルム会社シネセル、1976年)

内容は古九谷以来の九谷焼の簡単な歴史に始まり、次に工程が紹介される。原料の陶石採掘、ろくろによる形造り、本焼き、さらには骨書き、上絵付けからなる絵付けの様子までが示される。こうした一連の手順の紹介の中で九谷焼工業を支えているのが加賀の歴史や風土であることが力説されている。更に、作品の完成までが地味で丹念な手仕事に依存しているということが、映画の随所に見られる。

ただこの映画では作品が前面に出すぎているきらいがある。九谷焼の工程の紹介が断片的であり、児童が見る場合、九谷焼の工程や価値をし

っかり把握できるだろうかという疑問が残る。また、「九谷の里」として山麓地帯が映し出されているが、そこから九谷焼の地理的条件に児童が気付いてくれることを望むのも、やや高い要求のようである。

b 輪島塗 (30分, カラー, 石川県観光物産課製作, フィルム会社シネセル, 1973年)

この映画は2つの部分から構成されている。前半では漆器が造られる工程が、後半では故前大峰氏の沈金ぼりの様子が紹介されている。

特に前半では、漆掻き→木取り→わん切り→木地作り→下地塗→中塗→上塗, といった人手の巧みさと、多くの人手と時間を必要とする工程が紹介されている。この過程は見る者に、1つのおわんであっても多くの人々の手加えられていること、製品が職人の永年のカンと伝統的な工夫により生み出されていること、またそれらは伝統的な徒弟制度の中で育てられてきたことの、3点を強く印象付けるのである。

つぎに上述の工程を経て作られた漆器に前氏が沈金ぼりをしている過程が映写されている。この後半にいたっては、日用的な工業製品というよりは、むしろ芸術品としての輪島塗りが強調されている。

(3) 事前調査の結果とその利用による

展開案への試行

① 記述式調査の結果

前述のように「九谷焼」と「輪島塗」に関する児童の既有知識を知るために10項目の質問を設け、自由に記述回答させた。調査対象は金沢市内の公立学校4校(泉野小, 弥生小, 材木町小, 小坂小)と付属小学校のいずれも5年生である。次に調査結果の中から材木町小学校と付属小学校の調査結果を掲げる。

表1 「伝統工業についての調査」

調査項目		伝工 統業	調査校	
			材木町小	付属小
1	どんな品物か知っている。 (焼き物, 漆器等)	九	30人	29人
		輪	33	28
2	用途について知っている。(日常品, 飾り物等)	九	21	24
		輪	19	10
3	生産地を知っている。	九	15	25
		輪	23	38
4	工程について, ある程度, 知っている。	九	21	31
		輪	25	23
5	製品のもつ古い歴史について知っている。	九	5	5
		輪	9	1
6	量的にかなりたくさんつくられていることを知っている。	九	2	9
		輪	1	10
7	製品のもつ価値について知っている。	九	10	13
		輪	12	17
8	現実の問題点について知っている。	九	3	9
		輪	5	11
9	近代工業との違いについて知っている。(手作業, 長時間)	九	13	26
		輪	13	27
10	他の伝統産業について知っている。	県内	31	30
		県外	0	10

九---九谷焼 輪---輪島塗

以上のように、材木町小学校、付属小学校ともに同じような傾向がみられた。1, 2, 3, 4, 9, 10等の項目において児童の認識は予想以上に高かったといえる。これは、4年生の社会科での「石川県の産業」の学習経験に起因するところが大きいといえる。また、逆に5, 6, 8の項目についての認識は浅かった。これは、児童の今までの学習経験と発達段階とを考えると、かなり程度の高い項目であったといえる。概して、児童の両伝統工業への認識に関しては、どこで、どんなふうになられ、日常生活のどん

なところに入ってきているかといった製品そのものの認識は、浅いながらもかなりあるといえる。反面、製品の裏にある歴史的背景や現在の量質的な発展、悩み等に関する認識は乏しいといえる。このことは、5年生の伝統産業の学習で目標とする、製品のもつ意味、伝統技術の保存と合わせてみると、今単元の指導のポイントであると考えられる。

また、材木町小学校と附属小学校を較べると、前者は輪島塗についての認識がやや強く、後者は九谷焼についての認識にやや深まりがみられるといった傾向が認められた。このことは、展開に当たって、輪島塗を優先するか、九谷焼を優先するかといったバリエーションの材料になると考える。

② 映画利用の調査結果

映画「九谷焼」を利用したのは附属小、泉野小、弥生小の3校であり、「輪島塗」の方は材木町小、小坂小の2校である。但し、実験学級を使わずに各々の学校の別の同学年の学級を使って調査を実施した。実験学級では本単元の展開の中で映画を利用することにした。

表2 映画「九谷焼」を見ての疑問

調査項目	調査校		
	附属小	泉野小	弥生小
A 九谷焼の由来について	63 ^人 (29%)	5 ^人 (8%)	28 ^人 (19%)
B 技術について	0 (0)	3 (5)	30 (20)
C 原料について	7 (3)	0 (0)	24 (17)
D 販路について	15 (7)	2 (3)	7 (5)
E 工程について	36 (17)	6 (9)	26 (18)
F 設備について	33 (15)	1 (2)	4 (3)
G その他	62 (29)	47 (73)	26 (18)

以上のように3つの学校の調査結果にかなりの違いがみられた。附属小学校では由来についての疑問が多きされ、泉野小学校ではその他についての疑問が多かった。また、弥生小学校では、B、C、Eといった製品そのものについての関心が高いと同時に、項目Aの「九谷焼の歴史はどんなものか」についての疑問も多く、由来についての関心も高いという結果がみられた。このように各学校の調査結果に違いがみられたことは、地域差による生活経験の相違や学校における学習経験の相違も1つの要因として考えられるので、単元展開のバリエーションにとって、大いに参考にする必要があると思われる。

但し、ここで気をつけねばならないのは、調査方法に問題があったために、学校間の相違がでてきたのではないかということである。例えば附属小や泉野小に0回答の項目が多かったのは、EをBやCと同じものと考えた結果の表れと受け取れる。また、回答数に大きな違いがみられるのは、調査前には具体的な指示等はやらないうで実施することになっていたが、実施者の微妙な表現の違いから生じたものと考えられる。今後、このような調査をする時、検討する必要があるといえる。さらに、どの調査結果にも言えることであるが回答が多いのは、a)内容が理解でき、興味関心を惹起したのか、b)内容把握が不十分なるがゆえに、持った疑問なのかという点である。この点、日頃の児童の思考状態などを熟知している学級担任以外には判断が難しいが、その点も考慮して展開案を作成することもたいせつであるといえる。

次に「輪島塗」の調査結果を見ることにする。

表3 映画「輪島塗」を見ての疑問

調査項目	調査校
	小坂小
A 輪島塗の由来について	10人 (11%)

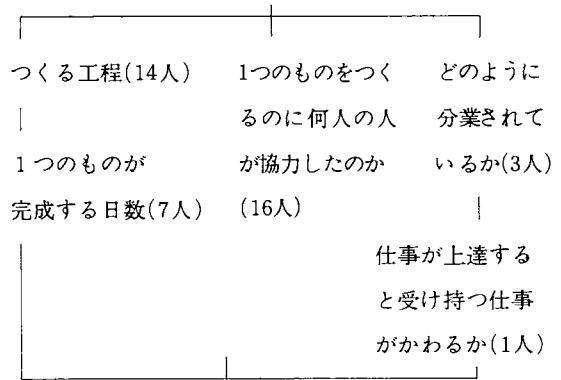
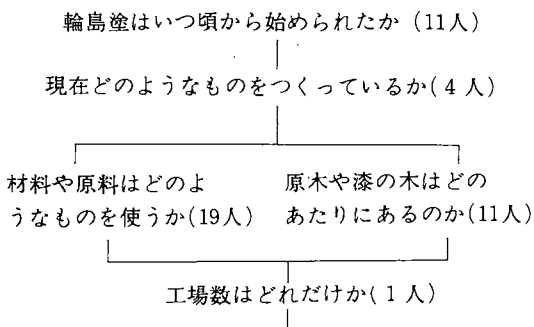
B	技術について	36人 (38%)
C	原料について	19人 (20%)
D	販路について	1人 (1%)
E	工程について	22人 (23%)
F	設備について	3人 (3%)
G	その他	4人 (4%)

この結果は弥生小学校のタイプとほぼ同じであるといえる。技術についての回答数が最も多く、次いで工程，原料が多い。このことから製品そのものが作られていく過程に興味をもっている児童が多いといえる。由来，その他の項目はあまり多いといえないがその他の中で，「輪島塗をやっている人たちはお年寄がほとんどだったので，輪島塗には若い人があるのか。」など，伝統工業の抱えている問題点を発見している児童もいる。これは映画「輪島塗」がもっている教材性に起因して，既存の知識としては何人かが知っているこうした問題点が引き出されたといえる。このことも，展開案の作成にあたって参考にしなければならないと考える。

③ 映画の調査結果をもとにした展開案への試行

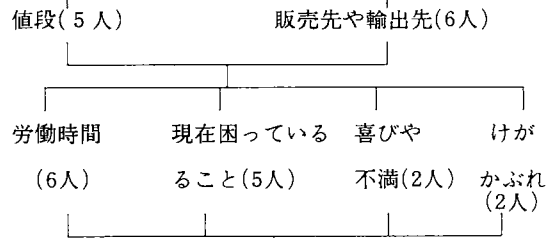
材木町小学校で調査した結果を組み立て，展開案への試行とした。

図1 「輪島塗の映画をみて」



どうして大量生産しないのか

生産額は1年間では，1日では(4人)



後継者はいるのか 休業年限 (14人)

<図の中にはいらなかった疑問>

なぜ輪島にしかできないのか (1人)

山中塗と輪島塗の違いは (7人)

(材木町小学校5年3組35名対象)

(4) 第1次展開案

次に示す第1次案は，ごく一般的な基本案として九谷焼，輪島塗の素材を通して，どのように展開するかを示すものである。目標に到達するためにおよそつぎのような過程をふまえるよう考えた。

- ① 全国各地にある伝統工業のさかんな地域の中で，この2つのものを取り上げる位置づけをはっきりさせる。
- ② 両者の製品はどんなものか，実際のものに触れて美しさに感心させる。

- ③ どのような条件の中で育まれてきたか、その背景を地理的・歴史的面から調べさせる。 いるのか、現状と将来の見通しについて調べる。以上の4過程をふまえることを基本として、
- ④ 技術の保存や育成がどのようにすすんで スタンダードな案として立案したものである。

展開案(第1次)

目標 ・伝統的な技術を生かした工業があり、人々が原料、土地条件を生かして生産していることを理解させる。

・生産の工夫や技術の保存を図るための努力が行われていることを理解させる。

学習計画 総時数11時限

- 第1次 オリエンテーション..... 1時限
- 第2次 九谷焼..... 4時限
- 第3次 輪島塗..... 4時限
- 第4次 まとめ..... 2時限

時	目 標	学 習 の 過 程	評 価
1	伝統的な工業製品と、その工業のさかんな地域を調べ、身近かな地域の伝統的な工業を調べる意識を高める。	<p>〈伝統的な工業製品には、どんなものがあるだろうか。〉</p> <p>全国各地に伝統工業のさかんな地域があり、美術的、工芸的性格のものが多い。石川県にも九谷焼や輪島塗がある。</p>	<p>・伝統工業は美術・工芸的性格をもっているものが多い。</p>
2	九谷焼の美しさやその作り方を調べ特色を知らせる。	<p>〈九谷焼の美しさは、どのようにしてつくられるのだろうか。〉</p> <p>九谷焼は複雑な生産工程によってつくられるが、絵付のしかたにその特色がある。</p>	<p>・九谷焼の美しさに感動し、つくられた時代背景をさぐるとうする意識が生まれる。</p>
3	九谷焼が石川県に育ってきたようすを知らせる。	<p>〈いつごろ、どこでだれがつくりはじめたものだろうか。〉</p> <p>江戸時代につくられはじめた九谷焼は、きびしい北陸の風土に生き育った工芸品の1つである。</p>	<p>・伝統的技術を生んだ背景をつかむ。(原料・加賀藩との関係、風土)</p>
4	生産の工夫を調べて技術の改善があることに気づかせる。	<p>〈生産高の変化や出荷先を調べ、生産の工夫について考えよう。〉</p> <p>大量生産のためにいろいろな工夫(形成・動力・窯・燃料・絵付・転写・分業)が行われているが、量産はむづかしい。</p>	<p>・量産の必要性とその工夫がなされているが、むづかしさがある。</p>
5	伝統的な技術保存と今後の問題点を考えさせる。	<p>〈九谷焼は今どのような問題をかかえているのだろうか。〉</p> <p>美術工芸か生活工業かという選</p>	<p>・工芸か工業か、後継者の育成の問題はなやみが多い。</p>

5		<p>沢をせまられ、一方では技術保存の後継者の育成にも苦勞している。</p>	
6	<p>輪島塗が全国的に有名なわけを考えさせ、その特色に気づかせる。</p>	<p>〈輪島塗とは、どんな製品でどんなな価値があるのだろうか。〉</p> <p>堅牢・華美で有名であり、売り上げものびている。</p>	<p>・伝統工業である輪島塗の価値を知る。</p>
7	<p>輪島塗の作業工程と、その特色（熟練した職人による分業制）を理解させる。</p>	<p>〈このようにすばらしい輪島塗はどのようにしてできるのだろうか。〉</p> <p>典型的な家内工業と徹底した分業で、高度な技術と日数をかけてつくり出す。</p>	<p>・量産をさけることによって、すばらしい製品をつくり出す。</p>
8	<p>昨今、輪島塗がかかえている問題点は、後継者の不足、複雑な工程による価格の高騰などを理解させる。</p>	<p>〈高度な技術を必要とする輪島塗は、どんな問題点をもっているのだろうか。〉</p> <p>技術の後継者が不足してきたことや、手づくりのため価格が高く、量産がでない。</p>	<p>・輪島塗がかかえている問題点は、伝統工業の共通的なものが多い。</p>
9	<p>伝統的な生産方法を生かしながら、需要に応じていく体制について考えさせる。</p>	<p>〈多くの問題をかかえる輪島塗は今後どのような努力が必要だろうか。〉</p> <p>量産体制よりも高度な技術を維持していくことに努力がはらわれている。</p>	<p>・伝統工業は技術保存が大切である。</p>
10	<p>九谷焼・輪島塗の共通点を出し、伝統工業の製品・生産工程・工夫・努力の特色を理解させる。</p>	<p>〈九谷焼・輪島塗に共通していえることはどんなことか。〉</p> <p>長い歴史をもつ伝統産業は、複雑な生産工程をもっており、技術保存の努力がはらわれている。</p>	<p>・長い歴史をもつ伝統工業は、複雑な生産工程と高い技術に支えられ美術工芸品の製品をつくっている。</p>
11	<p>近代工業と対比して伝統工業の特色と問題点を明確にさせる。</p>	<p>〈伝統工業は近代工業と対比して、どのようなちがいがあのだろうか。〉</p> <p>伝統工業は小さな家内工場の分業で行われるため、量産はできないが、高度な技術を生かしてできる点に特色がある。</p>	<p>・伝統工業は、量産ができないが高度な技術を生かしてできる特色をもっている。</p>

4 展開のバリエーション

(1) A型 九谷焼中心、見学主体の学習展開

〈その1〉 金沢大学教育学部附属小学校

この展開は、第2次・九谷焼で映画を用いず

工場見学を位置づけている。配時の上では、九谷焼に7時限を当て、輪島塗を2時限で切り上げている。このような展開を組んだ意図は、次の3点にある。

① 地域にある伝統工業を教材化するのだから

ら、実物の美しさには是非ふれさせたいし、生産工程や技術の巧みさは、やはり工場見学でつかませたい。前述の2本の映画は、伝統工業の姿を良く描いてはいるが、実物や実際の工場が語りかけ、問いかけてくる力には及ばないと思われる。

② 映画『九谷焼』は、前述のように映像で製品の美しさと生産工程を映し出し、言葉でその歴史を語っている。生産工程は映像中心で説明不足だし、歴史も言葉が難しく充分理解できない。そこで、第2次・九谷焼では映画を扱わないことにした。工場見学で生産工程をつかませ、歴史は書物で調べさせる過程を組んでみた。見学での、製品の美しさと技の巧みさが児童に与えた感動は、歴史を主体的に調べていく学習を充分支えてくれるものと考えた。生産工程と歴史の学習を終えた児童の興味・関心は、当然技術保存や大量生産との関係に向けられると予想し、展開を組んだ。

③ 第3次・輪島塗は2時間で切りあげてある。これは、九谷焼の学習を終えた児童は、類似する学習内容を繰り返さなくても、九谷焼との共通点を見つけさせることで、目標に到達できると考えたからである。映画『輪島塗』は、映像も言語も、生産工程を中心に構成され、よくまとまっている。この映画を使えば、生産工程は充分理解できるし、その背後にある生産の工夫や技術保存の問題も、九谷焼の学習を終えた児童は、確実に見ぬくことができると考えたからである。

第1次 オリエンテーション (1時限)	
時	学 習 の 過 程
1	<p>〈伝統的な工業製品には、どんな物がある〉だろうか。</p> <p>1. 家で聞いてきた伝統工業の製品と産地を発表し、分布図を作る。</p> <p>2. 家から持ってきた製品を見せ合い、製品の特色を話し合う。</p> <p>3. 石川県では、九谷焼と輪島塗が有名であることを知らせる。</p>

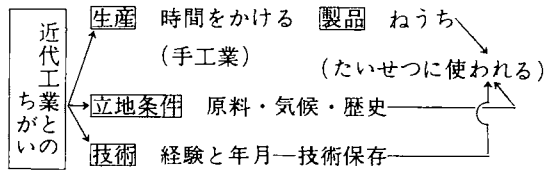
全国各地に伝統工業の盛んな地域があり、美術工芸的性格が多い。	
第2次 九谷焼 (7時限)	
2・3	<p>〈九谷焼の美しさは、どのようにして作られるのだろうか。〉</p> <p>1. 工場見学をする。</p>
4	<p>2. 見学でわかったことを話し合う(生産工程)</p> <p>・原石→陶土→素焼→本焼→焼</p> <p style="text-align: center;">↑ (上ぐすり) ↑ (上絵付け)</p> <p>3. 製品や作業工程の特色や工夫を話し合う。</p> <p>・美しい、高価 ・絵 手がき</p> <p>・型づくりしない ・本焼きしてから絵付けする</p> <p>・手工業</p> <p>九谷焼は手工業的技術による複雑な工程で作られるが、絵付けが特色である。</p>
5	<p>〈いつごろ、だれがどこで作り出したもの〉だろうか。</p> <p>1. 九谷焼の歴史について、見学で聞いてきたことを話し合う。</p> <p>2. 工場見学で残った疑問を出し合う。</p> <p>・九谷村で興った九谷焼は、その後どうなったか。</p> <p>・明治に入って、なぜ一時寂れたのか。</p> <p>・寺井、小松ではいつ頃から盛んになったか。</p> <p>3. 九谷焼の歴史について調べる(課外)。</p>
6	<p>4. 調べてきたことを話し合う。</p> <p>5. 各自のノートで、九谷焼の歴史年表を作り学習をまとめる。</p> <p>・九谷焼の発生と立地条件</p> <p>・九谷焼と加賀藩の関係</p> <p>・技術の導入と他の焼き物とのつながり</p> <p>・明治以後の盛衰と人びとの工夫</p> <p>江戸時代に作り出された九谷焼は、北陸の人びとが育ててきた工芸品的性格の強い製品である。</p>
7	<p>〈九谷焼は大量生産しているだろうか。〉</p> <p>1. 考えを出し合い、予想を立てる。</p> <p>・大量生産することは、九谷焼の特色を失わせることになるので、できない。</p> <p>2. 予想に反して大量生産するようになったことを知る。</p> <p>3. 大量生産のための工夫を知る。</p> <p>・炉の変化、自動ガス窯、半自動成型機、ハン、転写等の技術の工夫</p> <p>大量生産のため、いろいろな工夫が行われている。</p>
8	<p>〈大量生産するようになった九谷焼は、今どのように問題をかかえているのだろうか。〉</p>

8	<p>1. 品質の低下によって生ずる問題点を考え、大衆品と高級品を区別することで切りぬけようとしていることを知る。</p> <p>2. 特色と価値を残すため後継者の育成が必要なことを話し合い、その努力を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 美術品か工芸品かという選択に迫られ、一方では後継者の育成にも苦労している。 </div>
<p>第3次 輪島塗 (2時限)</p>	
9	<p>輪島塗と九谷焼の共通する点はどこだろうか。</p> <p>1. 映画『輪島塗』を見て、各自ノートする。</p>
10	<p>2. 輪島塗と九谷焼の共通点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高価で美しい、手づくり、複雑な工程 ・大量生産できない。 ・技術保存や後継者の育成に努めている。 ・歴史や伝統が工業を支えている。 <p>3. 共通点を見直し、伝統工業の特色をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 複雑な生産工程からすぐれた製品を作り出す伝統工業は、長い歴史を持ち、今も技術保存の努力が行われている。 </div>
<p>第4次 単元のまとめ (1時限)</p>	
11	<p>〈伝統工業は近代工業と比較して、どのよう なちがいがあろうか。〉</p> <p>1. 学習をふり返って話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手工業で高価な製品が多い。 ・技術の修得に年数がかかる。 ・近代工業は新しい技術の開発を求め、伝統工業は技術の保存に努めている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 伝統工業は小さな家内工場の手工業的分業で行われるため、大量生産はできないが、これが伝統工業の特色であり、そのための高度な技術保存が必要である。 </div>

・九谷焼の学習を終えたK子のノート

昭和40年代から大量生産が行われた。大量生産というのは、シールをはったり、はんこをおすのです。でも、せっかく考えた事なのに、これは落とし穴だと思うんです。落とし穴というのは品物が安くなり、価値を失っていくと思うのです。

・単元を終わったMのノート



〈その2〉 金沢市立泉野小学校

郷土の伝統工業を教材としてとりあげる場合、身近かにある生産工場を見学させることが、生きた学習になると考え、次のような展開で実践してみた。九谷焼の学習では、単に見学させるだけでなく、種々の参考図書や統計写真等の資料の他に精選された内容の映画を視聴させることによって理解を深めさせた。

第1次 伝統工業のさかんな地域と製品
ねらい 伝統工業のさかんな地域とその工業製品とを調べ、郷土の伝統工業を調べる意識を高める。

時	学 習 の 過 程	資 料
1	<p>〈伝統的工業とはどんなものか。〉 〈どんな製品があるのか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から伝わってきた工業 ・手工業で使われ、大量生産できなく長時間かかる。 ・製品をみてみよう。 有田焼, 九谷焼, 瀬戸焼 西陣織, 博多織 輪島塗, 会津塗 博多人形, 美濃紙 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 美しいな、すばらしい。 美術品として価値が高い。 </div> <p>〈これらの製品はどんなところ に作られているのか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国至る処にちらばっている。 ・太平洋ベルト地帯と必ずしも一致しない。 ・製品には地名で呼ばれるものが多い。 ・石川県では九谷焼や輪島塗が全国的に有名である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物 皿, 灰皿 わん, 財布 人形, 紙 ばん ・伝統工業 の分布図
<p>ねらい 調べたいことや疑問点を出し合い、問題を共通化する。</p>		
2	<p>学習問題をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九谷焼や輪島塗はどのようにして作られるのか。 ・昔からどのように伝わってきたか。 	

- ・生産を高めるためどんな努力をしているか。
- ・近代工業と比べてみよう。

第2次 九谷焼

ねらい 九谷焼について調べ伝統的技術を保存していこうとする努力と、大量生産し販売力をあげる努力のあることを理解させる。

3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・見学して調べる。 ・資料で調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・利岡光仙窯元 ・石川の地理 ・百科辞典など
4	<p>〈九谷焼はどのようにして作られているか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど手作り ・長時間かける ・技術の習得に10年かかる。 ・機械化され型に流しこむ ・技術的に簡単 <p>大量生産できない。高価(美術品) 大量生産できる。安価(日用品)</p> <p>2つの流れ</p> <p>伝統的技術を守ろうとする方向と、機械化し大量生産し販売力を上げようとする2つの流れがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・TP工程(トランスペア(レンシーの略称)) ・ろくろ回しの写真 ・生産高の推移グラフ ・生産者の話
5	<p>〈伝統を大切にしている九谷焼はいつ頃どこで起こったのか。江戸時代(1670年頃)山中九谷を中心に〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原石がとれる。 ・大聖寺藩をゆたかに。 ・加賀藩の奨励 <p>青木木米や後藤才次郎の努力</p> <p>一時衰えたが、明治に入って再生産されるようになった。</p> <p>伝統工業にも近代工業でみられる立地条件があり、九谷の美しさは明治に入り認められ、今日に至っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・九谷の位置 ・青木木米の業績 ・こども石川の地理

第3次 輪島塗

ねらい 輪島塗について調べたことをもとに、細分化された分業、しかもほとんど手工業で高い技術と多くの人手を必要とすることを理解させる。

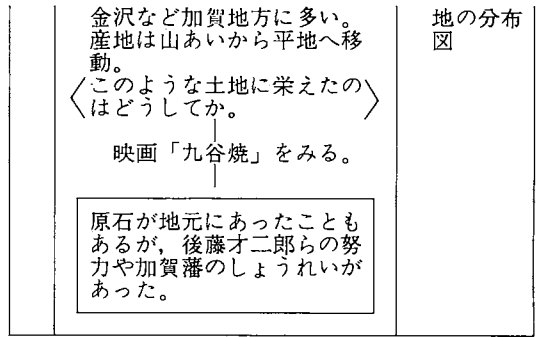
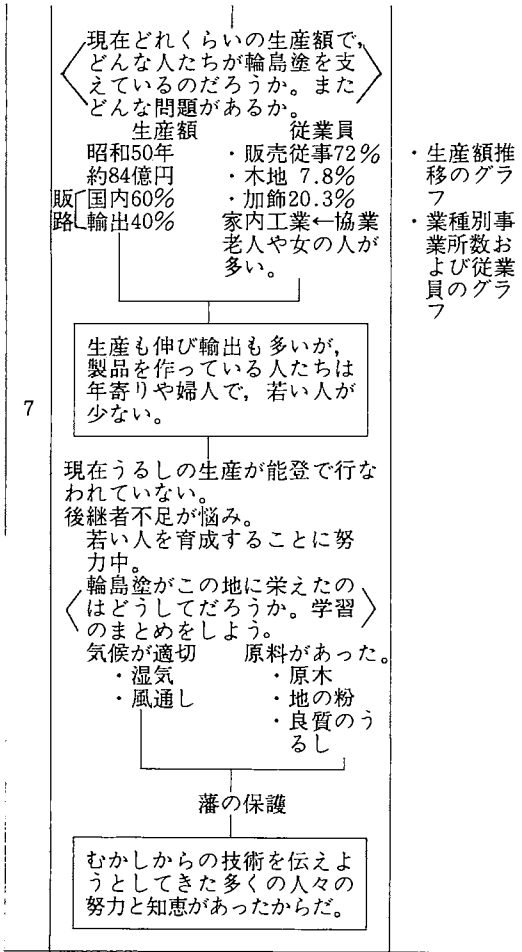
・輪島に立地した条件を考えさせる。

6	<ul style="list-style-type: none"> ・資料で調べる <p>〈どのようにして作られるのか〉</p> <p>問屋 → 塗り → 加飾</p> <p>130-150回の手数</p> <p>ほこりをきらう 適度な湿気、温度 沈金 蒔絵</p> <p>高度な技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの工程の写真 ・工程の図示 TP
7	<p>とても細かい仕事だ。ほとんど手作りだ。完全に分業化されている。高度な技術を必要とする。長時間かかる。問屋がまとめている。</p> <p>分業化され、それぞれの工程で独特な高い技能を必要とするため機械化できない。</p>	
8	<p>〈輪島で輪島塗が生産されるようになったのはどうしてか。うるしや生地にする木材の産地——(現在は輸入や移入にたよっている)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温・多湿の気候 ・うるしの歴史は古い。 ・中国から技術が伝わる ・雪国で雪にとざされた中での家内労働に適する。 <p>原料が入手しやすく、北陸の気候、風土の中で伝えられたのだ——これからも美を求め伝えていって欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原料の入手グラフ ・家内労働の写真

第4次 伝統工業の特色

ねらい 近代工業と比較させるなかで伝統工業の特色をまとめる。

9	<p>〈近代工業と比べて伝統工業の特色をまとめよう。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車工場では機械化(トランスファマシン) ・大量生産 ← 原料の輸入 ・輪島塗の映画(手工芸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタ自動車映画 輪島塗映画
10	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことや感想をまとめる。 <p>多くの人手。長期間のていねいな仕事。職人の高い技能。</p>	



第4次 まとめ（1時限）

伝統工業と近代工業を比較してどのような違いがあるのかをまとめる。

学習を終わって（原文のまま）

Y子 昔ながらの伝統を守って生産を続けて行こうとする若い人達も増えてきたので、石川県の伝統産業は今後も続いていくと思う。

K男 伝統工業は手作業が中心で、技術のすぐれている人ほど、品物の値段が高価となるが、手づくりの美しさを求める人達によって、今後も伝統工業は続けられて行くだろう。

A子 九谷焼の伝統を守るため、やはり手作業で上絵付をした方がよいのではないだろうか。しかし、それだったら大量生産はできないし、値段も高くて売れなくなるだろう。そうするとやはり印刷しなくてはならないのかな。

でも伝統工業の良さを守るために、オートメーション化はしないだろう。

M男 伝統工業は、もうこれ以上の機械化をしないだろう。機械化すれば品物の値うちがさがり、売れなくなるからだ。今後も伝統工業は守っていくべきだ。

児童の身近かにある製品を素材として教材化したため、児童は意欲的に探究した。特に次の3点の理解が大変良かったと思う。

(1) 資料が身近かにあったせいか、進んで収集につとめ、グループで解決をはかったこと。

第3次 九谷焼（2時限）

時	学 習 の 過 程	資 料
	<p>作り方に2つの方向があるというが、どんなふうに違うか。</p> <p>手づくり ・高価 ・美術品</p> <p>機械化 ・大量生産 ・日常用品として ・需要が大きい</p> <p>どちらも複雑な工程によって生産されるものの絵付けが特色。</p>	
	この九谷焼の産地は寺井・	・九谷焼産

(2) 伝統工業と近代工業を対比しながら、伝統工業製品のもつ値うちを理解したこと。

(3) 伝統工業を守ろうとする多くの人々の努力に目をむけることができたこと。

以上、輪島塗中心であったが、伝統工業のもつ問題点にもふれることができ、楽しい学習であったと思う。

(3) C型 輪島塗のみの短サイクル学習展開

金沢市立小坂小学校

伝統工業の取り上げ方として、ここでは例を「輪島塗」だけにしぼり、時数も5時限という比較的短いサイクルのものにしてみた。このような単一事例だけで、児童が伝統工業について真に理解し得るかどうか、不安な面は残るが、時数を多くかけられない場合の1つの試みとして以下の展開を考え、実践してみた。

時	学習の過程	資料
1	<p>〈伝統工業の製品には、どんなものがあるだろうか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪島塗、九谷焼、加賀友禅 ・山中塗、能登上布 <p>昔から伝えられてきた工業で現在も生産されている。</p> <p>実物を見てみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おわん、おはし、お盆、額など ・きれいでつやがある・高価だ。 ・じょうぶそうだ・手づくりだ。 ・形やもようがひとつひとつちがう。 <p>輪島塗を例にして、伝統工業について学習していこう。</p>	<p>「4 年年社会科資料集」</p> <p>各自が家から持ってきた品物を見せ合う。</p>
2	<p>〈輪島塗の映画を見て、わかったことや思ったことを話し合う。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木に天然うるしをぬっている。 ・何回も何回も、つやの出るまでうるしをぬる。 ・手作りでひとつひとつちがっている。 ・とても細かい仕事だ。 ・努力と修行のつみかさねだ。 ・1つのおわんができるまでに6か月もかかる。 ・いろいろな仕事がたくさんあって、分業をしている。 ・伝統があって、名人が多い。 ・若い人が少なく、年よりばかり。 	<p>映画(16mm)「輪島塗」</p>

3	<p>〈近代工業と比べて、伝統工業にはどんな特色があるだろうか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 手作りだ。(昔からの技術を受けた。) ・機械を使わず手足を使っている。 ・ひとつひとつちがった品物。 <p>大量生産ができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる。 ・ねだんが高い。 原料は木や土 <p>長年の経験と勘に頼り手作業であり、規格品を大量に作ることはできない。</p>	
4	<p>〈近代工業と比べて、伝統工業の良い点はどこか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形をいろいろと変えることができる。 ・いろいろな種類の品物ができる。 ・人の心を写し出すことができる。 ・機械では作り出すことのできない良さがある。 ・個性的な品物を消費者の好みに合わせて作るができる。 	
5	<p>〈伝統的工業には、どんな問題点があるだろうか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 年よりが多く若い人が少ない。 技術を身につけるのに長い年月がかかる。 <p>あとつぎが少ないので、技術がうけつがれなくなる心配がある。</p> <p>〈これからの伝統工業のあり方を考えてみよう。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①技術をうけつぐために、後継者を育てていくことが大切である。 ②技術をより良くする工夫や努力を重ねながら、手作りの良さを生かしていくことが大切だろう。 	

<考察>

以上のような流れで学習を展開してみたが、もう少し整理して示すと次のようになる。

- 第1次 伝統工業および輪島塗についての 実態把握…………… 1時限
- 第2次 近代工業との比較を通しての伝統工業の特色の把握…………… 1時限
- 第3次 伝統工業の良さや問題点… 2時限
- 第4次 伝統工業の将来…………… 1時限

とにかく、輪島塗を例にして、近代工業と比べながら、伝統工業の特色についてとらえさせようとしたわけであるが、一般化できたかどうかという点については、若干疑問が残った。また、資料が少なく、話し合いだけになる場面が多く、その面においても、概念的になり、具体的・実感的な把握をさせることが不足していたのではないかと思われた。

参考文献

- (1)岡本啓志監修・石川県高等学校野外調査研究会
石川県の伝統産業 昭和52年 北国出版社
P 5
- (2)文部省 小学校学習指導要領 昭和52年 P 29
- (3)矢ヶ崎孝雄・水越敏行・社会科教育研究グループ
児童の思考過程を核にした授業の設計と評価
金沢大学教育学部教育工学研究 第2号 昭和52年 P 1-27